

## 豪雪地帯の単身高齢者宅への支援と交流

三菱HCキャピタル株式会社 社員ボランティアの皆様  
【パートナー団体:社会福祉法人尾花沢市社会福祉協議会】

### ■活動の目的:

当社は、社会貢献活動方針のなかで、「地域貢献」を重要な分野のひとつに掲げ、社員一人ひとりが自分事として地域の社会的課題に向き合い、住民と協力しつつ、率先してその課題解決を図るよう取り組んでいる。そのなかで、近年、豪雪地帯における雪かきは、少子高齢化・過疎化の影響で「担い手不足」が深刻化し、単身高齢者を中心に大きな課題に直面していることから、地域がめざす持続可能な除雪体制の一翼を担いたいと考えている。

### ■活動を始めたきっかけ(活動開始 2019年2月):

当社は、事業活動にとどまらず、社会貢献活動を通じたステークホルダーへの貢献も使命と捉え、日本が抱える社会的課題に貢献する、当社ならではの活動のあり方を経営も含めた役職員で検討してきた。そのなかで、北海道出身である当時の社長(旧日立キャピタル)の実体験や思いなどを契機に本活動に着目し、さまざまなコミュニティや団体に実情を伺ったところ、地元が抱える雪かきへの課題、そのニーズなどを認識し、スタートした。

### ■活動内容(ボランティア実数 2023年2月実施時 32名):



当社の社会貢献活動に対する姿勢に深く賛同いただき、また、他県からのボランティア受入れ経験も豊富な山形県尾花沢市において雪かきボランティアを行うこととなった。

同市は、豪雪地帯対策特別措置法の「特別豪雪地帯」に指定されており、当社は単身高齢者宅を中心とした雪かきボランティアを1泊2日の日程で実施。地域との対話やその交流も大切にしたいとの思いから、雪かきの初心者が大半である当社社員に対して、除雪ボランティアセンター(社会福祉協議会)や地域住民の方々にご指

導いただきつつ、協力しながら除雪活動を行っている。

また、除雪作業の合間には、地域の文化に触れる機会を設けるとともに、豪雪以外の課題に対する意見交換や話し合いなども実施。過疎化、少子高齢化など、日本が抱える社会的課題について、現場の生の声を伺いながら、理解を深めている。

本活動のスタートは2019年。初回は2月1日(金)~2日(土)の日程にて、当社グループ役職員70名が参加し、4グループに分かれて、計4地区20軒の除雪を行った。

東京に本社のある企業による大規模な活動、さらには、社長自らが社員や地域住民とともに、真剣に除雪活動に取り組む姿勢などは高く評価いただき、高齢者を中心とした住民の皆さんからも大変に感謝いただくに至った。

その後、2020年は記録的な暖冬により降雪量が少なかったこと、2021、2022年は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、現地での雪かきボランティアは中止となったが、そのようななかでも、地域との交流を大切にしたいとの思いから、2021年には米国や中国などの海外グループ会社社員も含めた当社社員とその家族26名と地域住民とのオンライン交流会を企画・実施。お互いのつながりを実感しつつ、ともに励ましあう活動となった。



2023年には新型コロナウイルスも落ち着きをみせたことから、現地での雪かきボランティアを再開。感染予防の観点から、少人数での実施とはなったものの、2月3日(金)~4日(土)に、当社グループ役職員32名が参加し、尾花沢市内の計4地区11軒の除雪を実施した。初回の2019年の活動にも参加した社員もあり、数年越しの直接の再会を住民と喜び合う姿もみられた。

2024年においては、さらなる地域貢献への想いから、活動回数や対象地域を拡大、尾花沢市のほか、隣接する大石田町と戸沢村においても実施予定であったが、降雪量が少なく中止となった。

#### ■活動の成果:

単身高齢者宅を中心に累計31軒の除雪を実施。これまでに延べ102名の社員が参加。雪かきの担い手不足を解消することで、持続可能な除雪体制に貢献するとともに、交流を通じた地域の活性化にも寄与。また、地域住民から直接感謝される喜びを感じることで、より地域に貢献したいという、社会貢献活動に対する社員の意識変革、マインド醸成、加えて、社会的課題への“気づき”、課題解決に対する行動力の養成にもつながったものと思料している。

#### ■強調したいこと:

##### ①従業員の主体的な活動

社内のイントラネットにおいて、社員による自主的な参加を呼びかけ。当日はグループごとにそのリーダーや経験者を配置し、参加者による自主的な運営に任せている。

##### ②コミュニティや非営利団体のニーズへの対応

地域との対話を大切にし、除雪ボランティアセンターや除雪を行う各地区長の皆さんと、事前に複数回の打ち合わせを行っているほか、市役所などの行政とも連携することで、地域のニーズをその活動に反映させている。

##### ③社員の参加しやすさ

社会貢献活動に対する社員の意欲を支援すべく、交通費や宿泊費などは、原則、会社負担。2日間のうち、平日(金曜日)はボランティア休暇を取得可能とするなど、参加しやすい工夫。

##### ④企業のリソースや従業員のアイデア活用

本活動をよりよいものとするため、活動後に参加者へのアンケートを実施、その声を次回の運営に反映している。さらに、地域の皆さんに対しても、アンケート結果をフィードバックすることで、社会的課題に対する参加者の「気づき」や「アイデア」、その活動の振り返りを共有、地域活性化にお役に立ていただけるよう工夫している。

上記のとおり、さまざまな知識、経験、属性などを有する当社の多様な人材が地域と協力しつつ、当地の課題を自分事として捉え、自らの能力や個性を生かした自主的な活動をもって、その解決に貢献することをめざしている。



第9回企業ボランティア・アワード『コミュニティ貢献奨励賞』